

福田會内の新設乳兒保育所

主任 神 田 薫 子

去る十月十日から、下澁谷福田會育兒院内に新たに乳兒保育所が設けられました。私共福田會の事業は今迄五歳以上から十三四歳までの子供の養育といふことになつて居りましたが、時勢にかへりみて其以下の年齢の乳兒も取扱ひたいと希望して居りましたところ、府社會課の方でも年に壹千圓補助を與へるから、平均五名位の乳兒を保育して欲しい、といふ事を申して來ましたので、私共の方でも大に喜んで始めたわけでござります。

此の福田會育兒院内には、御存じの通り、六つの寮即ち愛生寮、種徳寮、厚生寮、保生寮、種善寮、種福寮が御座りますが、この中種福寮を今度新たに乳兒保育所にあてまして、私と助手の方と二人で乳兒の世話をし、この會の醫師になつて居られる方に衛生上の御相談をし、時々診察に來て頂く事になつて居ります。

實は今迄、この福田會に乳兒が居りませんでした

理由は、神奈川内山村の農家に乳兒はあづけて三四歳まで其處で育て、貰つて、幼稚園の年齢になりましてから、此處へ連れて來て居つたのでござります。この農村には、唯今女兒十九名、男兒二十三名も里子になつて居りまして、横山醫師が里子監督といふ名で衛生上精神上の注意をして居られます。それですから、今度あづかつた乳兒も、この村によい里親が見つかつたら早速そちらへやり、見つからぬ間だけ私共がお世話して居るのでござります。

私は今まで教鞭をとつて居りまして、乳兒哺乳の事は今度始めてありますから、色々皆様に教へて頂く事が多いと存じて居ります。出來るだけ熱心に致す積りで居ります。

序でに、福田會保育所の近況もお知らせしたいと存じます。此處は佛教諸宗派が連合して設立した社會事業でございまして、貧困の爲めや、或は孤兒となつた子供を養育して、義務教育終了の後、父兄に

引きとらせたり、又は適當な職業を興へたりして居りますので、私生兒とか、或は無籍の子供とかは收容しない事にして居ります。

上に申し上げました六つの寮には、各保母がついて居りまして、十人位の子供が一家族のやうになつて極く家庭的に暮して居ります。寮の大きさは八疊二間、六疊一間、玄間二疊、それに自修室、臺所等一箇の家屋と同じに出來て居ります、この他に、湯殿等は別に大きいのがあります。明治十二年の創立でありますから、御料地を非常に廣く御下賜を頂いたもので、院内は廣く、建物や設備に於ては實に完備して居ります。兒童は總て六十人程居ります。

子供達は一日此處で何をしてゐますかと云ふに、朝起牀しますと、各寮から保母に連れられて講堂に集つて參ります。此處では佛式禮拜がありました、誦經がすむと、感謝の歌、「あさゆう拜む みほどけの 慈悲の光に てらされて こゝろ楽しく そだち行く 我等の身こそ うれしけれ」を合唱します。それから幼稚園が院内に開かれますから、幼稚園の教室に集る子供もありませんし、學齡に達してゐる子供は兄妹仲よく手を携へて、附近の臨川小學校へ通

學します、學校がひければ花の咲き匂ふ廣い庭で遊び戯れてゐます。

さて尋常六年の課程の終つた子供はどうなるかと云ひますと、男兒は商店等へ、女兒も良家へ、それぞれ奉公に出してやります。唯一つ此處に困つた事には、社會がこの福田會の事業をよく了解せずして、「あんな所から來た子供だもの、うんと追ひまわして使つてやれ」などと云つて、いつまでも小僧、女中で、一向將來を考へてくれず、男兒なら店を獨立させてくれるとか、女兒なら相當の所へ嫁にやつてくれるとか、其處まで世話してくれる人々が、世の中に餘りないので私共も子供の將來について大いに心をわづらはして居ります。

又養子養女に貰ひたいと此處へ申込んで來るものが、澤山ございます。わりに世間でよい位置に置れない私共の所へ、さうした相談をもちかける人々には、二種類ございまして、相續者を親類間から貰つては色々面倒な事が多いから、子供の無い因果から、見ず知らずの子供を貰つた方が何の關りもなく、てよいと云つて貰つて行く人と、又手が不足で困るから子供をもらつてうんと働かしてやらう等といふ

人であるのでございます。前者の場合は大抵三つ四つ位以下のを貰ひたいと云つて申込みまして、かうして貰はれて行つた子供は、親にも大切にされ、大學にも入れられて社會有数の地位に立ますが、後者の場合には十歳以上のが欲しいと云つて来て、其は大きくなつたのは役に立つからであります、こんな場合には私共は大いに考てよく先方を調査します。

福田會で小學校までの教育をうけて外へ出ましたものは、年に二度敷入りといふ名で、此處へ集つて貰つてゐます。福田會で育つた方で、小さい時から天才のやうに繪が上手な子があつたさうですが、その人は遂に只今畫家として獨立してゐて、月何百圓といふ収入の人となり、行衛不明だつたお母さんを尋ね出し、立派な屋敷に住んで居られる人があります。この方等は福田會員中の立志傳の主人公ともなるべき方であります。

大正六年に、龜戸の方に福田會保育所を設けましたが、龜戸邊は労働者が多くて非常に保育所の必要を感じますので、只今百人位の子が、朝にあづけられ、夕べは親達に手をひかれて歸るといふ風になつて居ります。この龜戸の託兒所も大層よくして居るやうです。

佛蘭西の幼稚園

幼稚園は獨逸が元祖であるにも拘らず甚だ振はない。幼兒を學校に通學させるのは、兒童の發育上宜しくないといふ處から一部の教育者から反對された、兒童を禁止した事さへある。幼稚園の最も盛な處は、何と言つても佛蘭西と米國である。佛蘭西では幼稚園を一種の小學校と見做して居る。幼稚園に二つの種類がある。一つは母親學校と稱し滿二歳から六歳迄の兒童を預かり之を教育的に指導する。又一つは幼稚科と稱し小學校に附屬せしめ滿四歳から七歳迄の兒童を收容して之を教育する。

母親學校は多く都會にあつて、母親に代つて小兒を預かり之を哺育するといふのであつて、一種の託兒所であるが、併し文部會では多少の教育を施すべき規程を作つて之を示して居る。又幼稚科は地方に多く散在し、工業地に於ける労働者や何かの爲に小兒を預つて之を教育的に育て、やる事を目的として居る。此處では母親學校と異なり國語算術圖畫體操等小學教育の初歩を教へるやうになつて居る。初歩と言つても遊びながら教へるのであるが、併し他の國の幼稚園のやうに全然教へないのではない、矢張一種の初歩的小學教育を授くる事になつて居るから、小學校の一部と言つても毫も差支はない。其處では是等の幼稚園が凡そ何れ程あるかといふと、戦前の統計であるが一九一一年に於て公立二千五百九十六、園兒數三十七萬二百三人、私立一千二百三十六、園兒八萬八百三人あつた。斯の如く幼稚園を以て小學校の一部と見做して居るので、各市町村では之を奨勵して設けさせて居る。人口二千以上あるべきところで、公費をもつて幼稚園を立つる時は其の地方では其住民に對して入園の義務を負はせる事を許して居る位である。佛蘭西の幼稚園はもと貧兒預所から分離して起つたものであつて、單に教育を目的とするのみでなく、一方に於ては労働者の爲に其の足手纏ひを預てやるといふ社會政策をも大に加味して居る。故に其授業時間の如きも一日に三時間とか四時間とかいふのでなく、労働者が朝出て往つて夕方歸るまで全日預つて教育するのである。此の點は全世界に比類のない此の國の幼稚園の特色である。